

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300124		
法人名	株式会社 ゆう悠		
事業所名	グループホームともに		
所在地	北海道斜里郡斜里町青葉町28番地		
自己評価作成日	平成26年10月3日	評価結果市町村受理日	平成26年10月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0195300124-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームともにには開設2年目であり、一人ひとりに寄り添いながら、その人らしく生活できることを大切に日々の支援を行っています。9名それぞれの身体状態や精神状態に応じた活動を提供し、生き生きと笑顔で生活を送ることができています。
地理的条件にも恵まれ、近所のスーパーに食材やおやつを買いに行く、公園で焼肉をする等の活動も日常的に行われています。また、地域の方々との交流もあり、ボランティアさんの来所やなじみの方の面会なども多く、今までの関係を断ち切らない支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設前から行政や地域住民との協力関係を構築できるよう取り組み、地域で利用者が安心して暮らせるように地域住民と協力して「ともに救急隊」を組織し、災害等の緊急時にも支援して貰える体制を整えている。斜里町内の神社祭りやねぶた、産業まつりへの外出支援や美容学校生のヘアカット、調理や季節毎の飾り付け等に外部から様々なボランティアが来訪し、利用者に関わりながら生き生きと笑顔で過ごす生活の場を提供できるように取り組んでいる。また、事業所内で年間研修計画を立て、地域との関わりや利用者の食生活、健康管理、感染症、レクリエーション活動等について職員が持ち回りで講師になって研修を行っている。比較的若い職員が多い事もあり、社会人として基本となる礼儀礼節をしっかりと教えながら、人生の先輩である利用者の尊厳を保ち関わるように努め、地域の中で選ばれる事業所を目指して取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、休憩室への掲示のほか、毎月の職員会議でも必ず確認しています。また、相談者やご家族にも理解いただけるよう、パンフレットにも記載されています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り上げ、日常業務や職員会議等を通じて共有し、その実践に向けて取り組んでいる。また、年間目標も作り、事業所理念と共に毎月職員会議の中で確認しながらケアの基本として取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が野菜や魚を差し入れてくれたり、ボランティアで製作活動や外出支援、余暇活動の提供を受けています。また、自治会の花壇清掃や草取りに参加したり、自治会の方が避難訓練に参加されるなどの交流が保たれています。	地域との関わりを大切にしながら地域活動や行事に積極的に参加し、事業所の避難訓練、外出や調理、飾り付けの創作活動等にボランティアの協力を得ている。また、高校生のインターンシップの受け入れや地域の小中学校の運動会や学芸会にも出掛け交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が相談されたことについて、他施設やサービスの紹介も含め対応させていただいています。また、自治会婦人部の施設見学に対応し、認知症の方への支援や対応について説明させていただく機会を持っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月の開催を行い、現況報告やヒヤリハット等の報告、避難訓練の開催、入居者様との交流などを行っています。委員様からの意見も多く出され、その意見に対しては必ず検討し報告できるようにしています。	運営推進会議は年6回実施し、事業所の活動報告や利用者の状況、日常生活の様子や火災避難訓練等の行事について具体的に話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の保健福祉課とは待機者の情報共有や、入居者様に関わる制度上の手続きをスムーズに行えるように情報提供いただいたり、相談を行うことができます。	町の担当者とは、開設時から連携した取り組みが行われており、開設後も運営推進会議の参加や日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が入居者様に与える影響を理解し、できる限り身体拘束を行わないこととしています。今までに拘束を行ったことはなく、問題が生じたときには拘束を行わず、環境や介護方法の変更で対応できるよう検討し、支援を行っています。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について、管理者及び職員は外部研修や内部研修を通じて、身体拘束をしないケアの理解や認識の共有が行われており、身体拘束排除マニュアルや離脱マニュアルも作成している。また、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で入居者様への言葉遣いや態度が乱暴にならないように職員同士が気を配りながら支援にあたっています。また、今年度は3月に虐待についての内部研修を予定しています。		

グループホーム とともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用している方はいらっしゃいませんが、内部研修にて制度について学習する予定となっています(10月、3月を予定)。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にホームの運営・サービス・料金等に説明を行い、契約時には2名で対応することとし、十分に時間をかけて説明をさせていただいています。その他の機会でも不明な点などについても丁寧に説明するよう配慮しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々入居者様と関わりを持ち、意見や希望を表出しやすい環境になるよう心がけています。またご家族に対しても来所時や電話、文書などで確認するよう努めています。	家族や来訪者が、管理者や職員、外部者へ意見や苦情等を言い表せるように意見箱を設置している。また、来訪時や電話等で意見を伺い、家族からの意見や要望は速やかに職員間で話し合い改善するよう取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中での意見や提案等についてはその都度検討していくこととしている他、職員会議の中でも意見を出せる機会を持ち、そのことについてみんなで検討する体制を整えています。また、代表者は年に2度職員の個別面談を行い、希望や意見を聴取することに努めています。	朝のミーティングや職員会議、日常業務を通じて意見や要望、提案を聞くよう取り組んでいる。また、開設者は年2回、個人面談を行って意見や要望、希望等を聞き、話し合う機会を設け、向上心を持って勤務できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的に職員との関わりを持ち、相談を受けたり、必要なアドバイス等を行っています。また、職員個人の将来の目標を大切に考え、働きやすい職場環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回、テーマに沿って職員が講師となって内部研修を開催しています。それ以外にも必要時は臨時的に内部研修を行うなど、資質向上を図っています。 外部研修については機会があれば積極的に参加することとしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の事業所連絡協議会やケアマネ連絡協議会に参加をし、その中で同業者との交流を含めネットワークづくりを行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度はまだ新規入居者対応はありませんが、入居申し込みを受け付ける段階から、現在の状況の確認や要望などを理解できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み相談にいられたご家族様とは、話し合う場を持ち、現在の状況の確認や不安感などについても聞き入れることが出来るよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービス等についてご本人・ご家族・担当ケアマネと確認し、その上で入居前相談で確認した必要なサービスも含めて検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、ご本人にできることを職員がやってしまわないよう支援にあたっています。料理の下ごしらえや雑巾がけ、洗濯物たたみ、モップ掛け等職員と一緒にすることで張りを持った生活ができるよう支援を行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅に帰りたいなどの希望があった場合、ご家族のと相談をし、協力しながら希望に添えるようにしています。また、面会時や電話連絡時に様子を伝えたり、誕生日にも出席していただくなどの関係性を保っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の面会もありますが、職員が送迎し、なじみの方やなじみの景色に触れるという支援を行っています。 また、自宅の畑を手入れしたい強く希望される方には一緒に作業を行うという支援も行っています。	利用前からの生活歴や家族からの情報等、アセスメントを通じて、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう散歩や買い物、馴染みの美容室、自宅への帰宅等、行えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の合う合わない、好む環境等に配慮して食席を決めたり、入居者様が集まる時間には職員が必ず入り、お互いのコミュニケーションが取れるよう配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までの契約終了者は3名ですが、その後、ご家族とは町で会うなどした時に挨拶を交わすなど、疎遠になることがないように心がけています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別での関わりを大切にして様々な希望等の把握に努めています。言葉を発することが困難な方についても、表情や行動の中から希望を探っていくよう努力しています。	センター方式を活用し、日常生活で表情や会話から情報を収集し、家族からも聞き取りを行い、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、申し送りや記録、職員会議で情報の共有が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も、ご本人・ご家族との関わりの中で生活歴などを伺った時にはセンター方式に記入し、職員間で理解できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのできることできないことを理解し、できることを安全に行っていただけるよう支援しています。また、毎月の処遇会議の中で、その月の現状把握を行い、支援留意点等を確認しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは個別担当者と行い、次回の目標やサービス内容についての原案を作成しています。介護計画にはご本人のやりたいことやご家族の意向が反映できるよう努めています。	本人がより良く暮らすために本人、家族と話し合い、それぞれの意見や希望を取り入れ、現状に即した介護計画を作成している。また、毎月の職員会議でカンファレンスを行うと共に、担当職員によるモニタリングで意見や提案を聴取して介護計画書に反映させている。	今後は、本人のその時の状態や様子、表情、会話等も記入して、そこからモニタリングでの評価や新たな課題、サービス内容の変更等に活用できるように記録の書き方を検討しているため、その実践に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のシートを基本とし、その他、ホーム独自のバイタル・排泄・水分摂取等をこまめに記録し、職員が日々の支援に活用するとともに、介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人が今まで行ってきた暮らしや興味を持てることについて希望に添えるよう、また、希望する活動を職員に訴えることが容易にできる環境づくりに努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内外の施設やイベントなどを利用しながら、外出などを楽しんでいます。また、入居前の町内会の方が広報や敬老会の案内を持ってきてくれるなど、関わりを断ち切らない状態が続いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前から利用している医療機関を継続利用しています。医療機関への情報提供等については看護師が調整しています。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっており、常駐している看護師との連携で、適切な医療が受けられるよう支援している。また、利用者や家族から希望があれば往診も可能な体制になっている。	

グループホーム とともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が在籍しているため、日常の健康管理等は看護師が主として行っている他、体調変化の気づきや連絡調整、対応の仕方など日常業務の中で確認しながら健康維持に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはそれまでの経過やホームでの生活状況を情報提供しています。入院時にはご家族や病院関係者からの状態についてお聞きし、退院時にスムーズに生活が移行できるように環境を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で終末期の希望を把握しています。重度化した入居者様が出た場合、状況に応じて医療機関やご家族と連携を取りながら、対応していくこととしています。	重度化、終末期については契約時にターミナルケアの指針について家族に説明し同意書を交わしている。また、本人の状態の変化に応じて早い段階から医師、看護師、職員が連携し、方針を職員間で共有できる体制を作っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習などを行い訓練するとともに、施設で緊急時や事故発生時のマニュアルを作成し適宜確認することで対応できるよう心がけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の住民の方や運営推進委員の方々に協力を得、「ともに救急隊」を組織しています。年に4回避難訓練を行い、訓練後、救急隊の方々と意見交換を行うなど、災害時対策について検討を重ねています。 また、職員に抜き打ちで避難方法や備品の保管場所を確認するなど、意識向上に努めています。	消防署の協力を得て年4回、日中・夜間を想定した避難訓練を行い、訓練後に地域住民で結成されている「ともに救急隊」や消防と意見交換を行い、利用者が安全に避難できるように方法や手順を検討し、アドバイスや改善点があれば次回の訓練に活かせるように取り組んでいる。また、地震や津波等の自然災害についても避難方法や手順を話し合い、検討している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話しづらい内容のときには居室で対応するなど、入居者様の尊厳を大切に、穏やかに対応しながらも丁寧に接することを心がけています。	一人ひとりの尊厳と誇りを損ねないような言葉かけや対応を心がけており、プライバシーや羞恥心の配慮にも十分に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる場面が増えるよう、ゆとりをもって支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れは決められたものがありますが、外出や散歩の希望に対応したり、個人のペースを大切にしようと配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面時に鏡を見てもらうことでご自身で身だしなみを整えられるよう支援しています。頭髪やひげなどについても、伸びっぱなしで過ごすことがないように気を配っています。		

グループホーム とともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや刻む作業、テーブル拭きや味見などの作業をそれぞれの能力に応じ提供させていただいています。また、懐かしいメニューなどについて調理法の助言をいただくなどもしています。	メニュー調理職員と職員が利用者の希望を聞きながら作成し、調理の下ごしらえと一緒に楽しんでいる。また、一人ひとりのその日の体調に合わせた食事の提供や外食する機会も設けるなどして食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの食事摂取量と日中の水分摂取量をチェック版を利用して把握しています。体調やご本人の希望にに応じ、食形態や食事量の検討なども随時行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは定着しています。自力で行えない人には職員が介助してケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄することを重要視し、個別の排泄パターンを把握して支援にあたっており、現在、入居者全員がトイレでの排泄が可能となっています。	排泄チェック表の活用から排泄パターンや習慣を把握し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に牛乳を提供したり、野菜を摂れるメニューの作成を行っています。また、個々人の排便状況を確認し、医師から処方された下剤や整腸剤の服薬支援なども行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は設定されていますが、その都度確認し、入居者様の希望や体調等に応じ臨機応変に対応できるよう配慮しています。	週2回を目安に一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、利用者の身心の状態に合わせて二人介助や福祉用具を利用して安全にも配慮し、利用者が楽しんで入浴できるよう会話を大切にしながら取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の活動状況に応じて午睡を勧めたり、眠れる環境についても気温や湿度管理、衛生面などにも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方状況などは個別記録に添付し、職員全てが確認できる状態となっています。また、変更などがあった場合には日誌を活用し、確実に引き継ぎを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みのおやつを自分で買い物したり、プランターの作物の手入れ、草取り、日々の調理の下ごしらえや、拭き掃除など個々の状態に応じた活動を行っています。		

グループホーム とともに

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の買い物希望についてはなるべくご本人と一緒に買い物に行くようにしています。また、天気の良い日の散歩や屋外行事なども多く取り入れ、ボランティアさんの協力も得ながら、町内外のイベントやドライブなどを楽しんでいます。	日常的な散歩や外気浴、買い物の他に自宅や外食、地域行事の図書館祭り、ねぶた、産業祭り等に外出ボランティアや家族の協力も得ながら参加している。また、近郊の観光地の東藻琴の芝桜公園や宇登呂のオシンコシンの滝等、普段は行けないような場所への支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に所持金は施設で保管していますが、日常的な買い物では値段を見て「高いねえ〜」、「これ安いね」等言いながら、自分で買いたいものを選んで購入することが出来ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している人もいますが、家族に電話をかけたいという時にはホームの電話を利用していただいています。また、ご家族への年賀状作成を作成したり、友人知人からもお手紙や絵葉書などが届いたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは心地よく過ごしていただけるよう、温度・湿度の調整の他、衛生面にも配慮しています。 フロアの窓は大きく、外の天気や雨や雪などを見ながら季節感を感じていただいています。その中で、「今日は天気がいいから散歩だね。」等、その日の状況に応じた要望なども出されています。	室内は適切な温度や湿度が保たれており、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、共用空間は季節毎の飾りつけや行事の写真を掲示し、広くゆったりと過ごせるスペースが確保されて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	微妙な人間関係や自分の居場所となっている場所を変えない工夫をしながら快適に生活していただけるよう配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していた家具の使用や、ご本人の好きな花や写真を飾るなどの工夫を行いながら、安全に動ける動線にも配慮して居室環境を整えています。	居室には、本人や家族と相談しながら、自宅で使い慣れた家具や寝具、手作りの作品や家族の写真などが飾られて、本人が居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子や歩行器が使用しやすい状況になっています。また、トイレにはファンレストテーブルを設置しています。また、トイレと居室の戸の色を変えたり、照明位置を工夫することで迷わずトイレに行ける工夫もしています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ともに
作成日：平成 26年 10月 29日
市町村受理日：平成 26年 10月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	現在使用している経過記録には一日を通しての行動は記録されているが、その時の様子や表情等が不足しており、振り返りの資料としては不十分な状態であった。	経過記録にご本人のその時の状況が細やかに記載され、全職員がその人を共通理解することができ、次の支援に結びつくことを目標とする。	・記録について学習を行い、職員一同で経過記録に対する認識を深める。 ・記録を書くことに慣れるよう、積極的に記録を記入する習慣を身に付けていく。	6カ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。